

宮城県・蔵王エリア

素材研究
(国内)



地元の旅館では特別室「真田の間」を用意して宿泊プランも販売



今年10月の蔵王町産業まつりでは真田幸村の兜をかぶった武者姿も披露



今年7月には蔵王町矢附地区で「仙台真田ちゃんばら合戦」を開催



「仙台真田氏」を新たな魅力に
本家・長野県上田市とも連携して誘客促進



2006年にオープンした遠刈田温泉の共同浴場「神の湯」



仙台真田氏の九代当主・真田幸清の供養塔(蔵王町矢附地区)

エメラルドグリーンの水をたたえた火口湖「御釜」は「樹氷」と並び蔵王の象徴です

蔵王五色岳にある火山湖の御釜や冬の樹氷などで知られる宮城県蔵王町。春夏秋冬を通じて多彩な自然の魅力が中心となってきた蔵王観光の新たな目玉として、「仙台真田氏」の秘められた歴史に焦点を合わせ新たな魅力を発信しようという動きが進められています。

400年の時を経て甦る歴史秘話

戦国時代の武将真田幸村が生きた波乱万丈の生涯を描くNHK大河ドラマ「真田丸」が来年1月から放映されるのを前に、真田氏と深い縁を持つ宮城県の蔵王エリアでも、本家である長野県上田市との連携を図りながら、その歴史や文化を発信する取り組みが本格化しています。

真田幸村とその長男大助幸昌は「大阪夏の陣」で討死・自害しましたが、幸村の血脈を継ぐ唯一の男児である次男大八は4人の姉とともに外様大名筆頭格伊達政宗の治める仙台藩へと逃れ、正宗の重臣である白石城主片倉重綱の下で密かに養育されました。成人した大八は片倉守信と名乗って伊達家の家臣となり、領地として与えられたのが現在の蔵王町で在郷屋敷も構えられたといえます。

家康を窮地に陥れた大罪人・真田幸村の

血脈を継ぐ大八の行方を追い続けた幕府の目を逃れるため、大八死亡説や系図偽造などの危険まで冒して幸村の遺志を成就させた壮大な歴史秘話は、幸村討死から400年の時を経て、地域観光振興の目玉として鮮やかに甦るようになりました。

自然だけではない蔵王エリアの商品化を

蔵王町では「真田丸」の制作決定が発表される前年の2013年、蔵王町・白石市をはじめ宮城県内に伝わる「仙台真田氏」の魅力を活かすことで地域活性化や交流促進を目指す「蔵王山麓真田の郷を磨く会」が発足。同年の「仙台宮城デステイネーションキャンペーン」での仙台真田氏にまつわる商品13種の販売開始を皮切りに、「蔵王町産業まつり」にブース出展するなど活動を本格化させています。今年4月からは、交流促進事業「真田幸村公血脈の郷・蔵王町」も開始。長野県上田市で開催された「上田真田まつり」にも独自参加して、県境を越えた広域観光促進の取り組みにも着手しています。

蔵王町農林観光課の平間和彦・観光振興係長は、「大河ドラマの実現に向けて連携してきた上田市との地域間交流も含め、「仙台真田氏」を軸とする誘客促進にも力を入れていく」と説明。「旅行業界の皆さんにも、自然に加えて歴史や文化の側面からも蔵王エリアの商品化に取り組んでいただきたい」と呼びかけています。